



## ニュースレター発行にあたって

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年。  
 そのなかでも公害資料館ネットワークでは  
 オンラインでのつどい開催や動画・電子書籍の作成に着手しました。  
 3つの研究会や長崎でのトークイベントなど、  
 この1年のネットワークの動きをニュースレターでお届けします。

## 活動が評価されました

地球環境基金レポート2019に公害資料館ネットワーク  
 が「ベストプラクティス事例」として掲載されました。  
 これは地球環境基金が助成先に対して実施したフォロー  
 アップ調査の結果から、活動の自立性や継続性の観点でと  
 くすぐれた活動として抽出されたものです。  
 ネットワークとして培ってきた学びの場としての活動が  
 評価されました。



## ホームページをリニューアルしました

### ネットワークに参加する皆さまの情報をもとに公害の今を発信する



#### ▶ 学びの入り口に

公害について関心を持つ方にとって、学びの入り口になりたい。そんな想いから  
 ネットワークに参加する資料館とのつなぎ役であり、公害に関する多くの情報が  
 集積する場へと、ウェブサイトを更新しました。  
 また、そうしたネットワークを表現するため「公害の経験から得た知恵を、持続  
 可能な社会の実現のために」というフレーズをトップページに掲載しました。

#### ▶ 新たな情報も追加

2016年にホームページを開設して以来、活動の深まりに合わせて多くの情報  
 が蓄積されてきました。そこで、これまでのフォーラムや研究会の情報を整理し  
 たり、スマホにも対応しました。  
 また、新しくオープンした資料館にもお声をかけし、仲間が増えています。動画  
 や電子書籍も掲載されていますので、ぜひ一度ご覧ください。

ホームページ <https://kougai.info/>



## オンラインで研究会や 交流会を開催しました

Zoom を駆使して、「企業」「教育」「資料」の研究会や「公害資料館交流会」を開催しました。  
 オンラインで開催したことで、遠隔地からも参加できる利点がありました。  
 議論した内容について報告します。

## 五十嵐 実さんに聞く 「公害問題から学ぶ対話の場づくり」

### 企業研究会

- ◆日 時：2020年8月19日(水) 15:00-17:00
- ◆参加者：12名
- ◆ゲスト：五十嵐 実さん(日本自然環境専門学校校長、一般社団法人あのがわ環境学舎共同代表)

オンラインでの開催とあって、全国各地からつないでの研  
 究会。初の試みですが、ビデオ上ではありますが、“顔の見える”  
 交流となりました。

当日は、五十嵐 実さんから『SDGs時代のパートナーシッ  
 プ』(※)に収録された論文「問題解決の推進力を強化する場づ  
 くり」の内容を中心に、対立を乗り越える対話の場づくりにつ  
 いて40分レクチャーいただきました。

自然環境専門学校での教育活動や、阿賀野川流域で新潟水  
 俣病のまやい直し事業に関わっていた五十嵐さんが、お隣の  
 富山はどうされているのか? 知りたい! と参加した2009年  
 の『公害の今を伝えるスタディツアー』でイタイイタイ病の  
 問題解決のしかたに感銘を受けて公害資料館ネットワーク  
 に関わるようになったこと、2014年富山で開催した際に、  
 『緊張感ある信頼関係』の関係者がそろってのシンポジウム  
 ができたことをお話されました。

#### ▶ 質疑 & グループディスカッション

参加者からは同時代に新潟水俣病をどのように見ていたの  
 か、「共通の価値観を探っていく」新潟ではどのように? など  
 の質問が出ました。

その後、参加者は3グループに分かれて、感想を共有し、ゲ  
 スト講師にもう少し聞きたいことなどのキャッチボールを  
 しました。中でも、対話の場である「ロバダン」の400回開催  
 (!)への関心が集まりました。

意見の違いがあっても「そう考えられているんですね」と

いったん受け止めることや、学習、  
 共通体験の中で、こちらは事実を伝  
 える。皆が同じものを食べたり同じ  
 ことを考えたりするなかで考える  
 しかない、生活の話を聞くという言  
 葉が印象的でした。

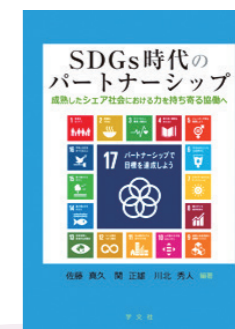


ちなみに・・・五十嵐さんは、メンタルモデルという言葉  
 を使われましたが、ピーター・センゲの『学習する組織』で使  
 われている言葉で、対話によってメンタルモデルの違いを理  
 解したうえで、できることをしていくことが大事だそうです。

「企業のガードは固く、こえられない溝を感じることもあ  
 り、理想と現実の違いを考えさせられる」という参加者の意見  
 もありました。課題も残ります。あきらめずに人間の可能性を  
 信じてチャレンジしたいと思うという五十嵐さんの言葉が印  
 象的でした。

(報告：藤原園子)

※参考文献  
 佐藤真久・関正雄・川北秀人編著『SDGs時代のパートナーシップ：  
 成熟したシェア社会における力を持ち寄る協働へ』学文社、2020年



ISBN : 9784762029318